

英語 I

出題の意図

本試験は、スポーツ科学研究科修士課程の学生に求められる英語読解力と論理的分析力の到達度を確認することを目的としている。扱う文章は、社会的・学術的内容を含む報道英文であり、構文や語彙を適切に理解する能力が問われる。受験生は、文の論理展開と情報構造を捉え、正確かつ自然な日本語へ再構築する力を示すことが求められる。これにより、大学院レベルで必要とされる英語運用能力の基準を評価する。

解答例

(1) (Knowing ~ foragers in Japan.)

クマと至近距離で遭遇した際にどう行動すべきかということは、かつては日本では登山者や山菜採りだけの心配事であった。

(2) (Now, however, ~ search of food.)

しかし現在では、クマが餌を求めて生息地を離れる中、一連の攻撃を受けて、人口の多い地域の人々にも身を守る方法を学ぶよう促されている。

(3) (None of the victims was seriously injured.)

被害者の中に重傷者はいなかった。

(4) (According to the environment ministry, ~ on record.)

環境省によれば、この4月以降、全国で9人が死亡しており、これは記録上最多の年間件数である。

(5) (The consensus is that ~ the animal.)

クマと真正面で向き合ってしまった場合は、目を合わせず、急な動きを避け、背中を向けずにゆっくり後退するべきだ、というのが一致した見解である。

(6) (They should not attempt ~ than humans.)

走って逃げたり木に登ったりしてはならない。これらはクマの方が人間よりはるかに速く、俊敏に動くからである。

(7) (All seven ~ the study said.)

うつ伏せになって頭と首を手で守った7人の回答者は全員、重傷を免れたと、その研究は述べている。

(8) (Changing behaviour ~ in the north.)

日本の大きく増加しつつあるクマの行動変化が、特に北海道を中心とした北部地域での事故急増の背景にあると考えられている。

(9) (There is also evidence ~ an encounter.)

また、気候危機による暖冬化がクマの冬眠入りを例年より遅らせ、その結果として遭遇の可能性が高まっているという証拠もある。

(10) (Akita and other local governments ~ hunters.)

秋田県をはじめとする自治体は、有資格の猟師が不足する中、襲撃の急増への対応に苦慮している。

英語Ⅱ

出題意図

- ・トレーニングおよび試合のストレス要因からのリカバリーは、アスリートに重要であり、競技特性によって複雑かつ多様となっている。そこで、リカバリーの有効性を認識しつつ、適切に選択できる知識と理解を図ることを目的とする。

模範解答

①Recovery from the stressors of training or competition (or both) is complex and varied depending on the demands placed on the athlete.

トレーニングまたは試合（もしくはその両方）のストレス要因からのリカバリーは、アスリートに課せられた要求に応じて複雑かつ多様である。

②Although there is still more work to be done to fully examine the mechanisms and the efficacy of many recovery strategies, currently sufficient evidence is available regarding many interventions to enable practitioners to make informed decisions for incorporating recovery into a high-performance program.

多くのリカバリー方略のメカニズムにおける有効性を十分に検証するためには、なお多くの研究が必要であるが、現在、十分なエビデンスの得られた介入方法も多数存在する。したがって、専門職は、ハイパフォーマンスプログラムにリカバリーを取り入れるために知識と理解に基づいた決定を行うことができる。

③Research in this area typically uses varying measures of performance (specific to the type of exercise performed and fatigue induced), markers of muscle damage and inflammation (e.g., creatine kinase, myoglobin), changes in blood flow, and perceptual measures of recovery, fatigue, and soreness.

この分野の研究は通常（遂行された運動および誘発された疲労に特異的な）パフォーマンスの各種測定値、筋損傷や炎症のマーカー（クレアチンキナーゼ、ミオグロビンなど）、血流の変化、およびリカバリーや疲労、疼痛などの知覚的測定値を用いる。

④In general, the aim of recovery is to decrease the time taken to return the body to homeostasis, from both a physiological and a psychological perspective.

一般に、リカバリーの目的は、生理学的および心理学的な双方の観点から、ホメオスタシス（恒常性）に戻るために要する時間を短縮することである。

⑤Common recovery strategies typically target muscle or body temperature, muscle soreness and inflammation, blood flow, and mental fatigue.

一般的なリカバリー方略は、通常、筋温や体温、筋痛、炎症、血流、そして精神的な疲労を対象としている。

⑥The recovery pyramid is built on the foundation of sleep, followed by nutrition and hydration.

リカバリーのピラミッドは、睡眠とそれに続く栄養および水分補給という基盤の上に形成される。

⑦This foundation can then be built upon by incorporating other strategies such as hydrotherapy, compression, and massage, which have been the focus of less research attention.

この基盤の上に、さらに水治療法、圧迫、マッサージなど、他の方法が取り入れられるが、それらが研究対象となることは比較的少ない。

⑧The top of the pyramid includes strategies based on minimal or no evidence and may be considered fads that are momentarily popular.

ピラミッドの最上部には、エビデンスはきわめてわずかな、または全くないリカバリー方略が含まれ、それらは、一時的に人気を集める流行的なものと考えられるだろう。

⑨The middle section of the pyramid may also be effective and can be appropriate when used in a comprehensive recovery plan.

ピラミッドの中央部分もまたリカバリーに効果的であり、包括的なリカバリー計画の中で利用することは適切であると思われる。

⑩The top of the pyramid includes emerging strategies that may have little or no evidence and, therefore, their effectiveness is unknown or questionable. These strategies should either be avoided or used with the knowledge that they may be ineffective.

ピラミッドの最上部は、わずかしか、あるいは全くエビデンスのない新たな方法が含まれ、したがって、それらの有効性は未知であり、もしくは疑わしい。これらの方法は避けるか、または、効果のない可能性を承知の上で用いるべきである。